



一般社団法人
企業研究会
Business Research Institute Since 1948

第16期

BRI 経営塾プログラム

～加速するグローバル展開とマネジメント～

2018年10月26日(金)～
2019年2月21日(木)
《全5回開催》

合宿研究会：1回（10月・熱海・ホテルニューアカオ）
都内会場：2回（12月・企業研究会セミナールーム、
2019年2月・アイビーホール）
現地視察：コマツ 千葉県稲毛海岸＜コマツIoTセンタ東京＞
講演拝聴

第16期「BRI経営塾」開講にあたって



一般社団法人 企業研究会
会長

小 枝 至

近年、日本企業においては、高いレベルで形成されている従来事業を、産業高度化に向かうアジアを始め、経済発展が目覚ましい国・地域に持ち込んでいく事が不可欠であります。

本プログラムでは、加速するグローバル展開とマネジメントに焦点を当て、本年も引き続き、企業経営の変革を担う次世代リーダーのために、第16期「BRI経営塾」を開催いたします。

新しい時代に求められるグローバルコーポレートガバナンスとリーダーのあるべき姿、日本が進めるグローバル化の今後のシナリオ、グローバル市場分析研究と各企業におけるグローバル・イノベーション経営の推進ならびにグローバル経済の最新動向およびイノベーション実践哲学推進の経営者からのご講演等々、次世代経営トップ層を担う人材に最適なプログラムであります。企業経営の変革を志す部長、部門長、執行役員クラス層のご参加を強く推奨する次第です。

〈目 的〉

次の5年間の諸課題を推測し、企業経営の創造と革新に向け、取締役並びに執行役員に求められるコーポレートガバナンスのあり方、トップマネジメントの改革力、創造力、リーダーシップについて最新事例を通じて研究する。

〈主な対象者〉

部長、本部長並びに取締役を中心に20名程度
(※後半ページに詳細ご案内)

〈指導体制〉

◆塾コーディネーター 油井 直次氏
元アクセンチュア(株)シニアパートナー
(元)一橋大学大学院 国際企業戦略研究科非常勤講師
(元)(公財)日本英語検定協会会長

〈期 間〉

2018年10月26日(金)～2019年2月21日(木)
合宿1回(2日間)、例会2日間、施設見学1日、
計5日間／5カ月

〈会 場〉

神奈川：熱海・ホテルニューアカオ(合宿研究会)
：コマツ・千葉県稲毛海岸(コマツIoTセンタ東京)(施設見学)
東 京：麹町・企業研究会セミナールーム
(本例会会場)
東 京：表参道・アイビーホール(本例会会場)



元アクセンチュア(株)シニアパートナー
油 井 直 次 氏

1972年国際基督教大学教養学部国際関係学科卒業、同年グローバルコンサルティング会社であるアクセンチュア社に入社、1987年グローバルパートナーに就任。2001年アクセンチュア社退職、一橋大学大学院国際企業戦略研究科非常勤講師、みらかホールディングス社外取締役監査委員長。公益財団法人日本英語検定協会会長を経て、現在は高校生英語ディベート全国大会を推進。グローバルリーダーの育成にあたる。

◆本チャート

セッションⅠ〈18.10.26～27〉

＜熱海・ホテルニューアカオ＞

(合宿研究会(1))

オリエンテーション

① 世界経済の長期展望と日本の経済成長・財政危機

② 中国経済の行方 ～中長期的な構造問題を中心に～

② ルールメーカーとしてのヨーロッパ

(合宿研究会(2))

「総合討議」

① 2028年日本の予測

セッションⅡ〈18.12.20〉

＜表参道・アイビーホール＞

「グローバル・イノベーション経営の推進」

① 「富士フィルムの第二の創業」

～危機からの脱出とグローバル事業拡大～

② 「Digital Disruption ～ Disruptor になるか、Disrupt されるか」

～What's next in Disruptive Technology - AI, Blockchain, Quantum Computing～

トップマネジメントの 見識と実行力の研鑽

セッションⅢ〈19.1.29〉

＜施設見学＞

コマツ・千葉県稲毛海岸 (コマツIoTセンタ東京)

～スマートコンストラクションの実態把握～

＜視察講演＞

「最新のICT 建機による生産性向上の追求」

～蓄積データの分析とドローン測量の徹底活用～

セッションⅣ・Ⅴ〈18.2.21〉

※(当会役員例会との合同会合)

＜表参道・アイビーホール＞

Ⅳ. グローバル経営の最新動向(役員例会との合同会合)

① 「強い日本型グローバル本社の作り方」

Ⅴ. 「修了講演」

② 「新たな産業自動化革命を実現する安川電機の挑戦」

修了立食懇親会 修了式及び交流会

◆講師のプロフィール



齋藤 尚登 氏

大和総研 主席研究員 経済調査部担当部長

1990年山一証券経済研究所に入社。1994年8月～1997年12月香港駐在。1998年大和総研に入社。2003年3月～2010年6月北京駐在。7年3ヵ月にわたる北京滞在中は、現地エコノミスト・ストラテジストの交流を積極的に行い、中国経済と株式市場制度などについて情報を発信。帰国後、主任研究員を経て2015年より主席研究員、経済調査部担当部長。

＜継続中の主な対外活動＞

財務省 財務総合政策研究所 中国研究会 委員(平成29年度～)

＜その他＞

霞山会月刊「東亜」、週刊金融財政事情、統計研究会「統計」の他、週刊エコノミスト、週刊ダイヤモンド等への寄稿多数。テレビ東京 Newsモーニングサテライト、日経CNBCコメンテーターなども務める。



樋口 正也 氏

日本アイ・ビー・エム(株)

Watson カスタマー・エンゲージメント事業部 事業部長

新潟県出身。京都大学工学部卒。日本IBM1993年入社。大和研究所、本社等にてソフトウェア関連事業、クラウドコンピューティング事業の立ち上げを行い、2009～2010年に米国ニューヨーク本社に赴任。2011年の震災直後より東北の復興支援、スマートシティ事業などに関わり、2012年より東北支社長、2013年北海道・東北支社長、パートナー・アライアンス事業部ソリューション事業部長、Watson事業部 EcoSystem担当 事業部長、コグニティブソリューション事業 常務補佐を経て、現職。



田口 芳昭 氏

(株)野村総合研究所 コーポレートイノベーションコンサルティング部上 席コンサルタント

東京工業大学大学院理工学研究科修了、サンダーバード国際経営大学院MBA in International Management取得。現在、野村総合研究所 消費サービス・ヘルスケアコンサルティング部長。

経営のグローバル化に向けた組織改革、構造改革・チェンジマネジメント、クロスボーダーアライアンス、企業統合支援などを、自動車、化学・製薬、食品、商社、金融業界向けに行っている。

著書・論文に、『世界が目にする英A I Mの市場活性化メカニズム』(週刊金融財政事情2008年8月25日)『なぜ日本企業は真のグローバル化ができないのか』(東洋経済新報社2015年12月)



小笠原 浩 氏

(株)安川電機 代表取締役社長

1979年九州工業大学情報工学科卒業、同年(株)安川電機製作所(現(株)安川電機)入社、2006年取締役 モーションコントロール事業部 副事業部長、2007年取締役 インバータ事業部長、2011年取締役 モーションコントロール 事業部長 兼 営業統括本部グローバルマーケティング担当、2013年取締役 常務執行役員 モーションコントロール 事業部長、2014年取締役 常務執行役員 技術開発本部長、2015年代表取締役 専務執行役員 技術開発本部長、2016年代表取締役社長 人づくり推進担当 技術開発本部長 人材多様性推進室長、2017年代表取締役社長 人づくり推進担当 人材多様性推進室長、2018年代表取締役社長 人づくり推進担当 ICT戦略推進室長。

独立行政法人 経済産業研究所 ご依頼中

※ご参加者には後日、ご連絡を差し上げます。



後藤 孝浩 氏

富士フィルム(株)

R&D 統括本部先端コア技術研究部長 兼

経営企画本部イノベーション戦略企画部長

1987年名古屋大学大学院 工学研究科修了後、同年富士写真フィルム(株)入社。1999年足柄研究所 主任研究員、2004年R&D統括本部 材料研究本部 印刷材料研究所 研究部長、2008年R&D統括本部 エレクトロニクスマテリアルズ研究所 所長、2015年経営企画本部 イノベーション戦略企画部 次長、2017年6月R&D統括本部先端コア技術研究部長兼経営企画本部イノベーション戦略企画部長現在に至る。

コマツ IoTセンタ 東京 管理責任者にご依頼中

※ご参加者には後日、ご連絡を差し上げます。

◆セッションI 合宿研究会(全タイムスケジュール)

- (1) 世界経済の長期展望（中国／EUの現状・課題と将来性の考察）
(2) 「日本の2028年予測」グループ討議 (3) 塾生による「日本の2028年予測」グループ討議の発表

日程	時 間	テ ー マ	講 師 名
10月26日(金)～27日(土) (合宿研究会)	10/26(金) 10:30～	合宿研究会の進め方 (※詳細内容は次ページをご参照下さい。) 本セッションでは、日本を取り巻く世界の動き、更には中国についてはシンクタンク主席研究員から、実例を踏まえたご体験並びに将来性について貴重な情報提供を頂く。その後、各企業にとって、低成長と日本の財政危機への対応について、参加メンバーが自由にかつ、突込んだ討議をする。	
	22:30	(1) 世界経済の長期展望と日本の長期展望 《10/26 タイム・スケジュール》 〈10:20〉現地集合 〈10:30～11:30〉オリエンテーション 〈12:30～15:00〉① 世界経済の長期展望と日本の経済成長・財政危機 油井 直次 氏 〈15:10～17:10〉② 中国経済の現在と将来の動向 (株)大和総研 主席研究員 経済調査部担当部長 齋藤 尚登 氏 〈17:30～19:30〉③ ルールメーカーとしてのヨーロッパ 独立法人 経済産業研究所 ご依頼中 〈19:40～21:00〉夕食 〈21:15～22:30〉懇親会	
	～10/27(土) 8:45～	(2) 世界経済の長期展望と日本の長期展望 《10/27 タイム・スケジュール》 〈 8:45～10:30〉① 日本の2028年予測～グループ討議 油井 直次 氏	
	13:10	〈10:40～12:00〉② 日本の2028年予測～発表・全体討議 〈12:10～13:10〉昼食懇親会	

◆セッションI 合宿研究会(1) 日本の成長課題

日程	時 間	テ ー マ	講 師 名
10月26日(金) (合宿研究会初日)	10:30~11:30 (11:30~12:30) 昼食	オリエンテーション	
	12:30~15:00	①「世界経済の長期展望と日本の経済成長・財政危機」 日本の2028年シミュレーション ～企業へのインパクトと対応策 - 成長を続ける世界、巨大市場共同体化する世界、取り残される日本 - 巨額の余剰資金が世界へ、過剰流動性を制する国が世界を制する - 米国の高い成長力と競争力と経済制裁力 - EUの財政危機と分裂のリスク - 中国の低下する成長力と急拡大する債務リスク - 日本の人口減少・低成長と巨額の債務リスク - 日本の2028年予測 - 日本の改革実行力評価 日本が抱える根本的な問題は、国・地方自治体が毎年約30兆円にも上る借金をして、やっとプラス成長の日本経済と、隠れた公的機関の不良債権も含め1200兆円とも言われる増え続ける公的債務である。2010年代、いよいよ本格的な少子・高齢化と人口減少、増税、避けられない年金給付カット等の時代に突入し、日本経済は低インフレ、低成長が続く可能性が高い。残念ながら、有効にして実行可能な国家的日本再生策は未だに見つかっていない。アベノミックスは不発に終わり、経営者は、この様な厳しい現状と近い将来起こりうる財政危機を直視し、より一層独占・寡占の進むグローバルマーケットへの更なる挑戦と企業としての戦略的な対応を考えておく必要がある。	
	(※次頁へ続く)	元アクセンチュア(株) シニアパートナー 油 井 直 次 氏	

◆ セッションⅠ 合宿研究会(1) 中国市場分析研究

日程	時 間	テ ー マ	講 師 名
10月26日(金) (合宿研究会初日)	15:10～17:10	②「習近平政権2期目の本格始動と中国経済の行方」 ～米中摩擦の本質はハイテク覇権争い～ 1. 米中摩擦は貿易摩擦に非ず、本質はハイテク覇権争い 2. 習近平政権2期目の本格始動 3. 「中高速成長」から「質の高い発展」への移行が意味するもの 4. 三大堅塁攻略戦（金融リスクの防止、脱貧困、環境汚染対策）とは？ 5. 中国の金融リスクをどう捉えるのか？ 米国と中国の貿易摩擦の行方が、世界経済の減速要因としてクローズアップされている。しかし、米中の摩擦は貿易問題にとどまらない。その本質はハイテク覇権であり、恐らくその先にあるのは基軸通貨を巡る覇権争いであろう。こう考えれば、米中間の問題は複雑化、長期化する可能性が高い。 2017年10月に開催された第19回党大会では、習近平氏が総書記に再選され、「習近平の新時代の中国の特色ある社会主義思想」が党規約の行動指針に明記された。2018年3月の全人代における国務院・国家機構人事を経て、第2期習近平政権が本格的にスタートした。 こうした中で、安定成長はいつまで続くのか？膨張した企業債務問題は暴発しないのか？不動産バブルはどうなるのか？結局、中国経済をどうみたらよいのか？ 様々な疑問や心配は尽きることはない。 こうした疑問や心配に答えるべく、第16期「BRI経営塾」の合宿研究会では、「中高速成長」から「質の高い発展」への移行、三大堅塁攻略戦、特に金融リスクを切り口に、中国が抱える様々な問題やリスクを把握し、それを冷静に評価すべく、皆さんと一緒に考えていきたい。	
	17:30～19:30	③ グローバル市場分析研究 EU 「ルールメーカーとしてのヨーロッパ」 EUルールの世界的影響力に産業界の関心が高まっています。環境規制などEUの影響力の源泉はどこにあるのか。日本企業はどのように対応すべきなのか、などの点の考察を通し、理解しづらいEUの本質を浮かび上げさせます。また、一昨年決定した英国EU離脱についても、所感を聞かせて頂きます。	(株)大和総研 主席研究員 経済調査部担当部長 齋藤 尚登 氏
	19:40～22:30	夕食および懇親会	独立行政法人 経済産業研究所 ご依頼中

◆ セッションⅠ 合宿研究会(2) 日本の再生シミュレーション / EU市場分析研究

日程	時 間	テ ー マ	講 師 名
10月27日(土) (合宿研究会2日目)		《総合討議》 ここでは、前半3つのご講演の主要ポイントから、10年後の日本経済並びに変革が予想される産業界について自由にかつ、突込んだ討議をする。そのためには、各企業では、“今、何を” 具体的に解明し、その方策となる経営課題をいかに設定すべきかを徹底的に討議する。	
	8:45～10:30	①「日本の2028年予測」～グループ討議～ コーディネーター：元アクセンチュア(株) シニアパートナー 油井 直次 氏	
	10:40～12:10	②「日本の2028年の日本の予測・発表」～全体討議～ コーディネーター：元アクセンチュア(株) シニアパートナー 油井 直次 氏	
	12:10～13:10	昼食懇親会	

◆ セッションⅡ 直近2年／第14～第15期修了講演講師一覧

第14期 (2017年2月27日)



「富士フイルムにおけるイノベーションの推進」について語る同社戸田副社長

第15期 (2018年2月20日)



「ヤマト運輸の新規事業に向けた取り組み」について語る同社栗栖専務執行役員

集合写真



修了者の方々（※途中退席者を除く）

◆ セッションⅡ グローバル・イノベーション経営の推進

日程	時 間	テ ー マ	講 師 名
12月20日(木) (於 東京・麹町・企業研究会セミナールーム)	13:00～15:00	① 「富士フィルムの第二の創業」 ～危機からの脱出とグローバル事業拡大～ 1. グローバルの定義 2. 危機からの脱出ストーリー 3. 新規事業戦略 4. R&Dの拡充 5. M&Aの推進と新興国戦略 6. グローバル市場拡大プロセス事例 7. グローバル人材の育成 8. 今後の課題 2000年代、富士フィルムは本業消失の危機に陥ったが、技術の棚卸しを行い、新たな成長戦略と重点事業を明確にした。それを達成するために、次々とR&D拡充、M&Aを行い、第二の創業を加速させ、R&Dや事業の拠点をグローバルに展開した。そのストーリーを事例を交えながら説明し、聴衆の方々と相互に意見交換することで、グローバル展開を効率よく行なう処方を見出せば幸いです。 富士フィルム(株) R&D統括本部先端コア技術研究部長 兼 経営企画本部イノベーション戦略企画部長 後藤 孝浩 氏	
	15:10～17:10	② 「Digital Disruption ～ Disruptorになるか、Disruptされるか」 ～ What's next in Disruptive Technology - AI, Blockchain, Quantum Computing～ 1. Disruptor 2. What's next in Disruptive Technology 3. AI / Watson 4. Blockchain 5. Quantum Computing 6. To be a Disruptor 業界を劇的に変革するDisruptor(破壊者)、AmazonやAlibabaに限らず、旅行業界ではBooking.com, AirBnBなどすべての業界にDisruptorが存在します。企業がDisruptorになるか、Disruptされるのか、この違いはどこにあるのかについてDisruptive Technologyの最新動向を交えてお伝えします。 日本アイビーエム(株) Watson カスタマー・エンゲージメント事業部 事業部長 樋口 正也 氏	
	17:15～18:15 全体討議		
	18:15～19:15 懇親会		

◆ セッションⅢ 視察と講演拝聴

日程	時 間	テ ー マ	講 師 名
1月29日(火) (於 コマツIoT東京センタ)	13:30～17:00 (千葉・稲毛海岸) コマツIoT センタ東京	「施設見学」 コマツ IoTセンタ 東京 ～スマートコンストラクションの実態把握～ 現在「モノ」がインターネットで繋がるIoT（モノのインターネット）等の先端技術が、様々な分野において活用されています。建設現場においては、現場の多くの情報をICTで繋ぎ、安全で生産性の高い現場を実現すると共に蓄積されたデータを活用し、社会インフラの整備や災害復旧にも役立てる等その活用法は多岐にわたっています。本施設見学では、千葉にあるIoTセンタを訪問し最新のICT建機のデモンストレーションやドローン測量の様子を見学し、建設現場へのICTの導入が生産性にどの様に寄与するのかを視察します。 視察講演 「最新のICT建機による生産性向上の追求」 ～蓄積データの分析とドローン測量の徹底活用～ ※「当日は、先方様のスケジュールにより一部変更もありえます事ご了承下さい。」	
	(17:30～19:00) 夕食・懇親会	<タイム・スケジュール(予定)> <13:30> 京葉線・稲毛海岸駅「南口」改札口集合 <14:00～14:30> 説明:「スマートコンストラクションについて」 <14:30～15:00> デモンストレーション見学①「ICT建機デモ」②ドローン飛行デモ <15:15～16:00> ICT建機試乗 <16:00～17:00> 質疑応答と全体討議 <17:30～19:00> JR稲毛駅周辺にて懇親会	



◆セッションⅣ グローバル経営の最新動向 / セッションⅤ 修了講演 ※(当会役員例会との合同会合)

日程	時 間	テ ー マ	講 師 名
2月21日(木) (於 東京・表参道・アイビーホール)	13:30~15:30	Ⅳ. グローバル経営の最新動向 ① 「強い日本型グローバル本社の作り方」 ～日本版GOM（グローバルオペレーティング・モデル）の構築～ 1. 日本企業はグローバル化しても効率性は上がらない 2. GOMとは？ 3. GOMの2つケース（グローバル事業型と地産地消型） 4. 日本企業にとってのGOM構築の論点 5. いくつかの示唆に富む日本企業のGOM構築ケースに学ぶ 6. ラップアップ 日本企業、特に製造業は既にグローバル化している。しかし、グローバル化という規模拡大を果たしても、利益率は上がらない。海外企業との比較をしつつ、いくつかの日本企業の事例を取り上げながら、日本企業ならではの強いグローバル本社の作り方を議論できればと思います。 (株)野村総合研究所 コーポレートイノベーションコンサルティング部 上席コンサルタント 田口 芳昭 氏	
	15:45~17:15	Ⅴ. 修了講演 ② 「新たな産業自動化革命を実現する安川電機の挑戦」 1. 安川電機の紹介（概要） 2. 産業用ロボットの誕生と現在 3. モノづくりの変化 4. これからのモノづくり 5. 安川のソリューションコンセプト “i3-Mechatronics（アイキューブ・メカトロニクス）” 6. 産業用ロボットの挑戦（人協働・IoT・AI） モーターとその応用をDNAに安川電機は2015年に創業100年を迎えた。現在は2025年ビジョンを掲げコア領域であるメカトロニクス、そして新規領域であるクリーンパワーとヒューマトロニクスにおいて事業の拡大を進めている。モノづくりの現場は労働力不足や人件費高騰を背景にグローバルで大きな変化が起きている中、安川電機は2017年にソリューションコンセプト “i3-Mechatronics” を提唱し、新たな産業自動化革命を実現するため、モノ売りからコト売りへ戦略を大きく転換し取り組んでいる。 (株)安川電機 代表取締役社長 小笠原 浩 氏	
	17:20~18:20	修了立食懇親会	
	18:30~19:30	修了式及び交流会	

◆第15期 BRI 経営塾修了者の声



(株)PFU UMC事業部 事業部長
竹内 稔 氏

第15期BRI経営塾に参加して

セッションⅠの合宿研修会では「長期展望と日本の長期展望」と題して、講義では米国、中国を中心とした経済状況と、世界経済への影響を学び、グループ討議では「日本再生シュミレーション」の検討を進め2027年の日本を各視点より予測した。グループ討議の頃には初顔合せの塾生は既に会社の枠を超え、意見を交わす姿が印象に残っている。その後、4ヶ月間で行われた3回のセッションでは、市場や、ビジネスの環境変化に対し、構造、コア技術活用方法などの変革を行ってきた4社(富士フイルム、IBM、東京ガス、ヤマト運輸)の、具体的な事例の講話を通して、塾生自身が自社のビジネス構造を考える良い機会となった。合宿、セッションを通して、米国の政策転換、中国の「強国」長期構想などが、日本に与える影響を認識し、安定的な成長を遂げるには日本も変革の必要があること、そして、自社、自身の成長においても、コア技術の活かし方を変化させビジネス軸を増やすなど、多くの考える機会をいただいたことに感謝したい。今後、講師、塾生とのつながりも大切に、自らの次のステップに活かしていきたいと思う。

◆ 一般社団法人企業研究会のプロフィール

当会は昭和23年5月、敗戦後の混乱と荒廃の真只中に、当時の有力鉄鋼メーカー中堅幹部(主に経理部門)を中心として、数人の学者及び経済安定本部調査課の人々からなるインフォーマルな研究懇談会が開かれました。その後、自動車、造船、紡績、製紙工場等のメーカーの有志も加わってくる中で一定の事務局機構をもつフォーマルな会員相互の研究機関への構想が打ち出され、同年12月7日、経済安定本部長官邸で正式名称を「企業研究会」として創立総会が開催されました。

当初、任意団体として発足した本会も研究活動の活性化と会員の増加とに並行し、昭和31年3月31日、通産大臣認可の社団法人に組織替えがおこなわれ現在に至っております。

本年70年目を迎えておりますが、発足時から受け継がれた産・学・官共同による地道な実践プログラム、さらに出版・編集活動などにみられるとおり、ますます強化され、比類なき研究機関として期待を集め、それを中心として多様かつ広範な活動が展開されています。

当会歩みは戦後の経済成長を達成し、近年の国際経済・福祉社会の発展を担う企業の役割と軌を一つにしているものといえましょう。さらに当会は2011年4月、一般社団法人移行を機に存在感ある信頼される経営団体を目指し、今後とも鋭意努力して参る所存です。

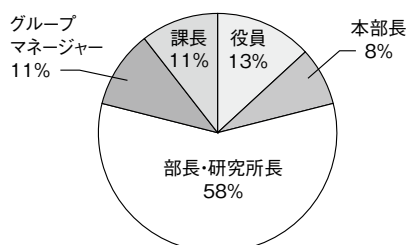
当会役員

会 長	小枝 至	日産自動車(株) 元共同会長
副 会 長	有馬 利男	一般社団法人グローバル・コンパクト・ネットワーク・ジャパン 代表理事
	伊藤 一郎	旭化成(株) 名誉会長
	葛岡 利明	(株)日立製作所 業務役員専務
	広瀬 道明	東京ガス(株) 代表取締役会長
副会長・専務理事	石山 進	一般社団法人企業研究会
理 事	榮 敏治	新日鐵住金(株) 代表取締役副社長
	鈴木 洋	HOYA(株) 代表執行役最高経営責任者
	津田 晃	(株)西島製作所 社外取締役
	内田 幸伯	一般社団法人 企業研究会(常勤)
	池田 朋之	一般社団法人企業研究会 事務局長(常勤)
監 事	谷口 昌己	公認会計士
	森田 和一	パナソニック(株) 客員

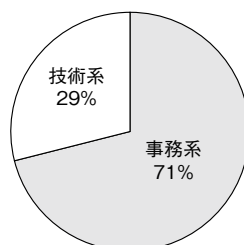
【第10～15期 直近6年参加企業一覧】

旭化成(株)／イオンモール(株)／エიმネクスト(株)／(株)エスアールエル／花王(株)／キューピー(株)／(株)サガミチェーン／新日鐵住金(株)／セイコーウオッチ(株)／(株)ソルベックス／(株)大気社／東京ガス(株)／(株)東芝／日産自動車(株)／日本電気(株)／野村不動産(株)／野村不動産アーバンネット(株)／野村不動産ホールディングス(株)／日立キャピタルサービス(株)／日立キャピタル損害保険(株)／日立キャピタル(株)／(株)PFU／富士ゼロックス(株)／富士ゼロックスアドバンスドテクノロジ(株)／富士レボ(株)／三菱化学エンジニアリング(株)／三菱商事(株)／みらかホールディングス(株)／(株)ミロク情報サービス／横河ソリューションズ(株)

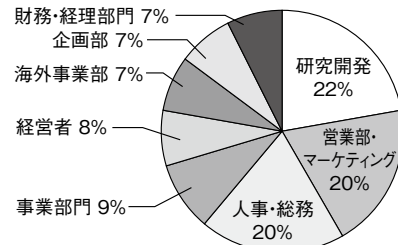
【直近5年：役職別参加一覧】



【直近5年：分野別区分】



【直近5年：部署別参加一覧】



◆ 開催会場案内

《合宿研究会会場》

■ 神奈川：熱海
ホテルニューアカオ



神奈川県熱海市熱海1993-65
TEL. 0557(82)5151

■ JRご利用の場合

東京方面より東京～熱海(新幹線利用で約50分)
名古屋方面より名古屋～熱海(新幹線利用で約2時間)

バス 熱海駅よりシャトルバスが送迎致します。

■ 東京：麹町

企業研究会「セミナールーム」

東京都千代田区麹町5-7-2 MFPR麹町ビル 2階
TEL. 03(5215)3550



■ 千葉：千葉市

コマツIoTセンタ 東京



千葉県千葉市美浜区新港223-1
TEL. 050(3486)7829

JR京葉線「稲毛海岸」駅よりタクシーで約10分
JR総武線「稲毛」駅よりタクシーで約20分

■ 東京：表参道

アイビーホール



東京都渋谷区渋谷4-4-25
TEL. 03(3409)8181

銀座線・半蔵門線・千代田線下車
表参道駅下車 (B3出口より徒歩5分)

◆ 参加要領

1. 申 込 先：一般社団法人 企業研究会 第2研究事業グループ
〒102-0083 東京都千代田区麹町5-7-2 MFPR麹町ビル 2階
電話 03(5215)3550 FAX. 03(5215)0951～2

2. 受講対象者：取締役並びに執行役員(上級部長を含む)

3. 受講料：1名	正 会 員	432,000 円 (本体価格：400,000 円)
	一 般	486,000 円 (本体価格：450,000 円)

(資料・昼食代・合宿費・懇親会費等の一切を含みます。)

4. 会 場：ホテルニューアカオ (合宿会場)
神奈川県熱海市熱海 1993-65 TEL. 0557 (82) 5151 <http://www.i-akao.com/newakao/>
アイビーホール
東京都渋谷区渋谷 4-4-25 TEL. 03 (3409) 8181 <http://www.ivyhall.jp/>
コマツ IoT センタ 東京
千葉県千葉市美浜区新港 223-1 コマツレンタル美浜センタ内 TEL. 050 (3486) 7829 <http://www.komatsu-rental.co.jp/>

5. お知らせ：・電話でも受け付けますが申込用紙は必ず郵送又は FAX にてお送り下さい。 FAX 03(5215)0951～2
・FAX でお申込みの際「0 (ゼロ) 発信の FAX 機」をご利用の場合は、必ず、「0」を押してから、番号入力をお願い致します。(別番号への誤送信にご注意下さい。)
・当会ホームページ(<https://www.bri.or.jp/>)からもお申込みいただけます。
・受講料の払い戻しは原則としていたしません。
・銀行送金の場合は会社名でお振込み下さい。
・領収書を必要とされる場合はあらかじめご連絡下さい。
※本コースは、事務局 福山が担当しております。お気軽にお問い合わせ下さい。

取引銀行
三菱東京UFJ銀行 神田駅前支店 普通預金 No. 0003369
三菱東京UFJ銀行 神田支店 普通預金 No. 42002
三井住友銀行 東京公務部 普通預金 No. 19205
みずほ銀行 神田支店 普通預金 No. 211983
※口座名 一般社団法人 企業研究会

郵便振替口座
東京00150-6-96032 一般社団法人 企業研究会

一般社団法人 企 業 研 究 会 御中

No. _____

2018年 月 日

180047 - 0101

「第16期 BRI経営塾」参加申込書

【ご参加者向け記述項目】

会 社 (事務所)		電 話 ()
所 在 地	〒	FAX ()
部・課・役職名		
氏 名	(ふりがな)	
E- メールアドレス		
専 門 分 野	(例) 財務・経理・技術・研究開発・営業・総合戦略 etc.	
連 絡 担 当 者 (ご本人の場合は記入不要)	(会社名)	電 話 ()
	(住 所) 〒	FAX ()
	(部課役職名)	(氏 名) (ふりがな)
	E メールアドレス：	

【関係資料〈受講票・請求書〉の送付について】

(備考欄)

※該当項目に○印をご記入下さい。

連絡ご担当者宛て	受講票	請求書
参加者ご本人宛て	受講票	請求書

◆標記プログラムを受講いたしたく上記のように申し込みたいします。